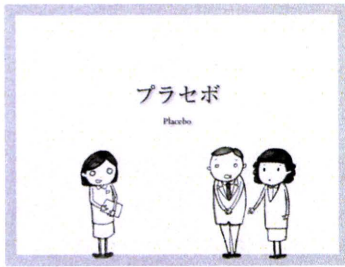


Menu

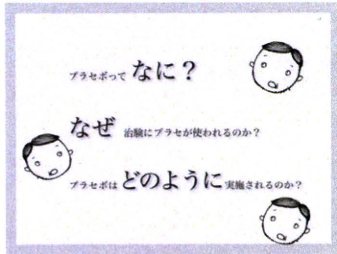


起動画面

書籍の表紙風。

登場人物は、被験者夫婦と白衣女性の3名に変更。

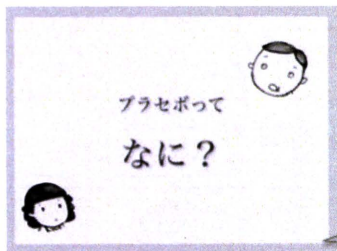
Index



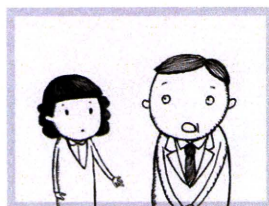
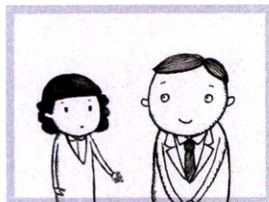
目次

3つのチャプターをタッチすればショット-カットできる

Chapter 1



Chapter 1 中表紙



● “掴み” の導入部

被験者夫婦の会話をユーモラスに描くショートコント風に展開。

「頭が痛い」とぼやく夫。

「この薬、よく効くよ」と水と一緒に粉薬を差し出す。

夫、薬を飲む。すぐに気分が良くなる。

「この薬、ホントに効くねー」と上機嫌になる夫に対して、妻は、飲ませたモノが「薬でも何でもない、(小麦粉)よ」と告げる。

愕然とする夫。

「でも、ホントに薬を飲んだ途端に頭痛が弱まったんだ。

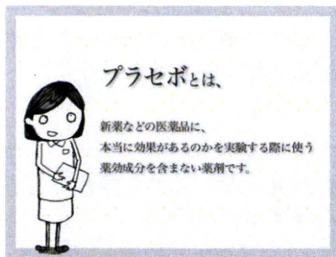
あれが薬じゃないなんてシンジラレナイ・・・」

と、その時、異空間から女性の声が聞こえる。

白衣女性（声）「それをプラセボ効果と言うのです。」

夫「プラセボ効果????」

●夫婦が異空間に引き込まれる。白衣を着た女性が二人を迎える。

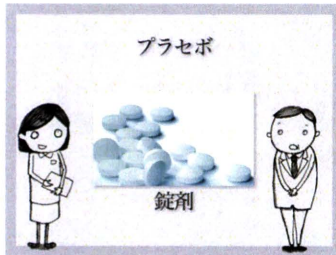


白衣女性：  
プラセボとは、  
新薬などの医薬品に、  
本当に効果があるのかを実験する際に使う  
薬効成分を含まない薬剤です。



白衣女性：  
例えば、これはプラセボなんですよ。

夫：  
本物の薬にしかミエません。。



白衣女性：  
これもプラセボです。

夫：  
むむ。



白衣女性：  
これだってプラセボです。

夫：  
注射まであるのか！  
これは見分けつかない・・・。  
中身は一体何なんですか??

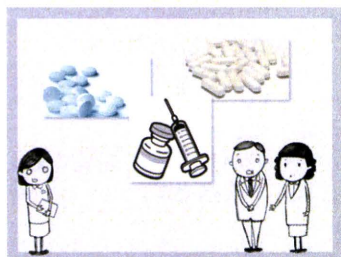


白衣女性：  
プラセボの中身は・・・



白衣女性：  
澱粉や糖分などでつくられたもの。  
人体に何の作用も及ぼさないものです。





妻：  
でも、どうしてここまで手の込んだことまでして  
偽の薬をつくる必要があるのかしら？

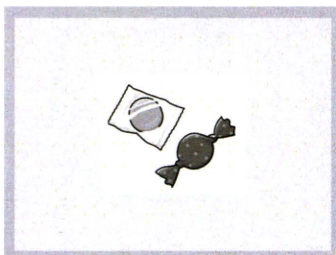
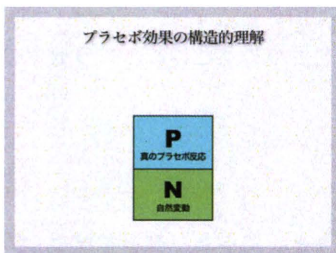
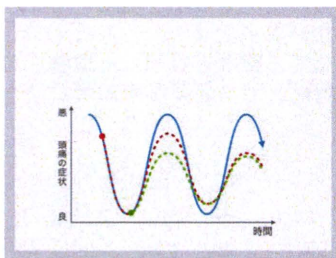
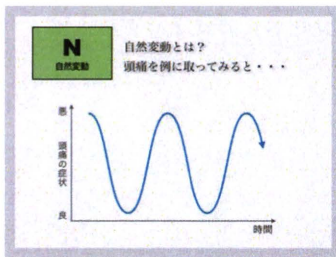
白衣女性：  
それは、薬の効き目が、人の気持ちにとっても左右される  
モノであったりするからです。

妻：  
ああわかる。  
「この薬は効きますよ」と言われたら、偽の薬なのに頭  
痛が治ってしまったり・・・

夫：  
ウツ・・・

白衣女性：  
ふふ。  
でも、それだけが理由でもないんです。  
新薬の治験にプラセボが使われる理由をこの後くわしく  
ご説明しましょう。

Chapter 2



Chapter2 中表紙

白衣女性：  
新しく開発された薬を患者さんに飲んで貰って、効き目を試すのが治験です。

でも、ただその薬を飲んで効くか効かないかを見るだけではダメなんです。

なぜかというと・・・

白衣女性：  
一つの要因として、病気の間には「自然変動」といって、症状が重くなったり軽くなったりする波がもともとあるんです。

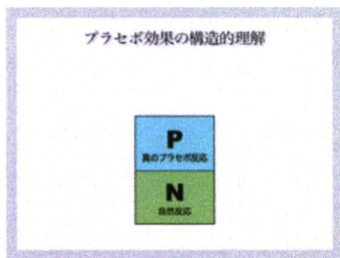
だから、薬をつかって症状が良かった場合でも、もともと症状が良くなる時にたまたま薬を使っただけかもしれない。

例えば発熱の場合、熱は上がったたり下がったりするものですから、もともと下がる時に薬を使っても、下がったのが薬のおかげかどうかは分かりませんよね。

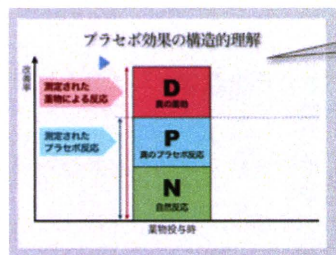
白衣女性：  
二つ目の要因は、薬をもらうという心理的効果で効く場合があることです。

例えば、甘くない飴でも、「これは甘いですよ」と言われると甘く感じるように、お医者さんから「この薬を飲むと、よく眠ることが出来ますよ」と言われると、実際には薬ではないものなのに、よく眠れることがあります。

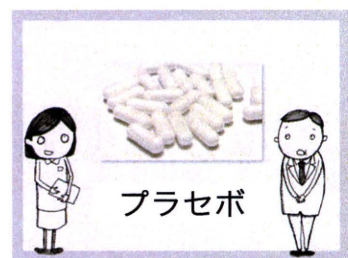




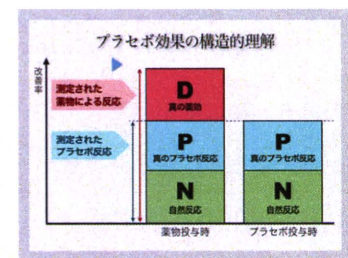
白衣女性：  
一つ目と二つ目の要因は、薬がもたらした効果ではありませんから、治験結果としては使えないわけですが、



白衣女性：  
ここに「本当に薬が効いた」という部分も加わるわけですから、このままでは「どこまでが薬の効果なのか」を見極めることが出来ません。



白衣女性：  
そこで「プラセボ」の登場です。



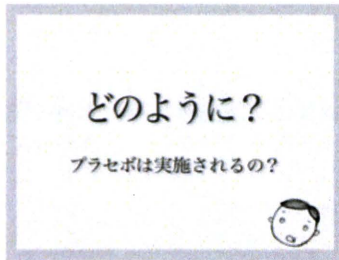
白衣女性：  
治験では、実薬とプラセボを服用するグループにわけて比較がおこないです。  
両者を比較して、実薬を服用した患者さんの改善率が明らかに高ければ、その新薬は有効だという判断をくだせます。



白衣女性：  
おわかり頂けましたか？  
有効な新薬を見極めるために、プラセボの役割は大きいのです。

白衣女性：  
さて、となると、あなたが被験者だとして、自分がプラセボを飲むグループになるのか、実薬を飲むグループになるのが気になりますね。  
その仕組みを次でご説明しましょう。

## Chapter 3



## Chapter3 中表紙

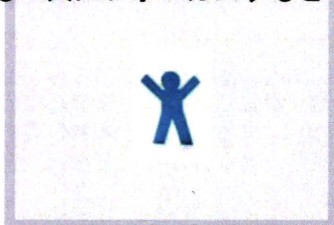


白衣女性：  
まず、おさらいです。  
治験では、実薬を飲んでもらって、どれだけ効くのかを試してもらう人のほかに、プラセボを飲んでもらう人も準備して、薬の心理的影響がどのくらいあるのかを調べます。



白衣女性：  
そこでは、出来るだけ多くの人を対象にする必要があります。

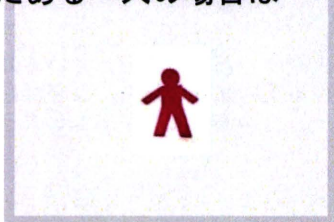
ある一人にフォーカスすると・・・



白衣女性：  
なぜならある人の場合、その人は、今症状が良くなる時にあたるかもしれないし、また、その人は心理的効果が高く現れる人かもしれません。また、体質的に薬がよく引く人かもなのかもしれません。

こうした人に薬が効いたことだけでは、その薬が本当に効いたと判断することが出来ないのです。

またある一人の場合は・・・



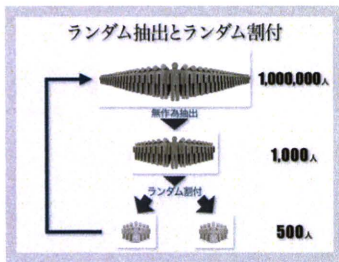
白衣女性：  
またある人は、今症状が悪くなる時にあたっていて、心理的効果も弱く、体質的に薬が効きにくい人かもしれません。

その人に効かなかったからといって、その薬が効果が全くないと判断することも出来ないのです。

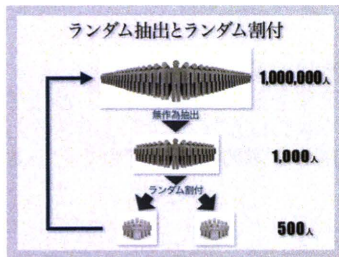


白衣女性：  
そこで個人個人の違いをならすために、多くの人を対象にして薬の試験を行って、極端に偏った結果が出ないようにします。

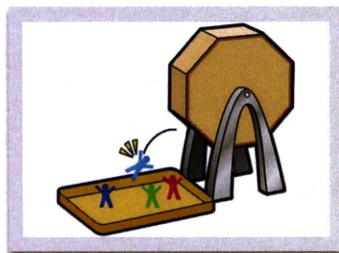




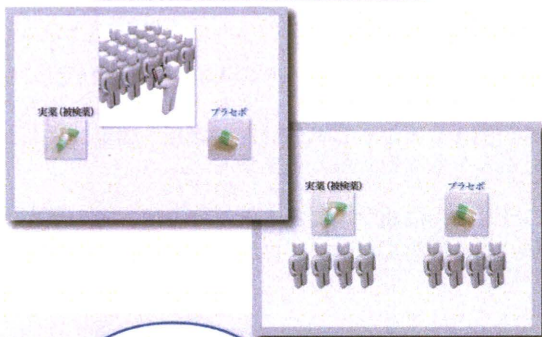
白衣女性：  
では、多くの人に試験を行う際、本当の薬とプラセボのどちらを使ってもらおうのかを、どうやって決めるのでしょうか。



白衣女性：  
症状が悪くなる人ばかりに本当の薬が使われたり、あるいは体質的に薬がよく効く人だけにプラセボが使われるというようなことがあってはいけません。



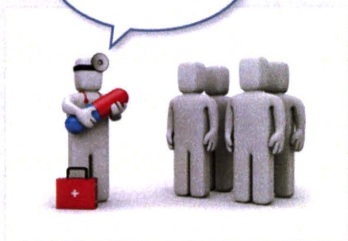
白衣女性：  
そのような偏りをなくすための一番の方法は、どちらを使うのかということ、を、でたために決めることです。



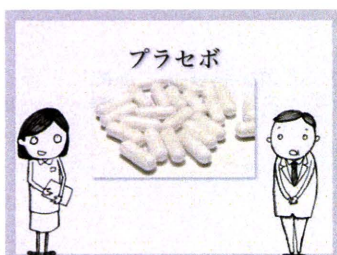
白衣女性：  
性別や年齢、あるいは担当医でどちらを使うかを決めてしまうと、偏りが生じてしまいます。なので、できるだけ「でたため」になるように、本当の薬を使う人達と、プラセボを使う人達を分けることを行います。



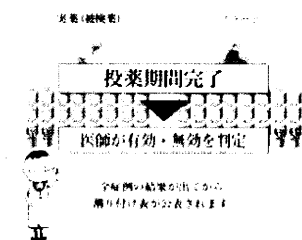
実薬かプラセボか  
私もわかりません。



白衣女性：  
それぞれの人達に、どちらを使っているのかは、本人はもちろん、担当医も知りません。なぜなら、それがわかると、治療に偏りが出してしまう恐れがあるからです。



白衣女性：  
このようにして、偏りなく薬の効き目の試験をして、本当にその薬が効くのかどうかを調べていくのです。



白衣女性：  
そして、予定された投薬期間が完了した時点で、  
医師は有効・無効を判定し、  
全症例の結果が出てから割り付け表が公表されます。

信頼できる新薬を誕生させるための

プロセボ

ご理解とご協力を  
宜しくお願い申し上げます。

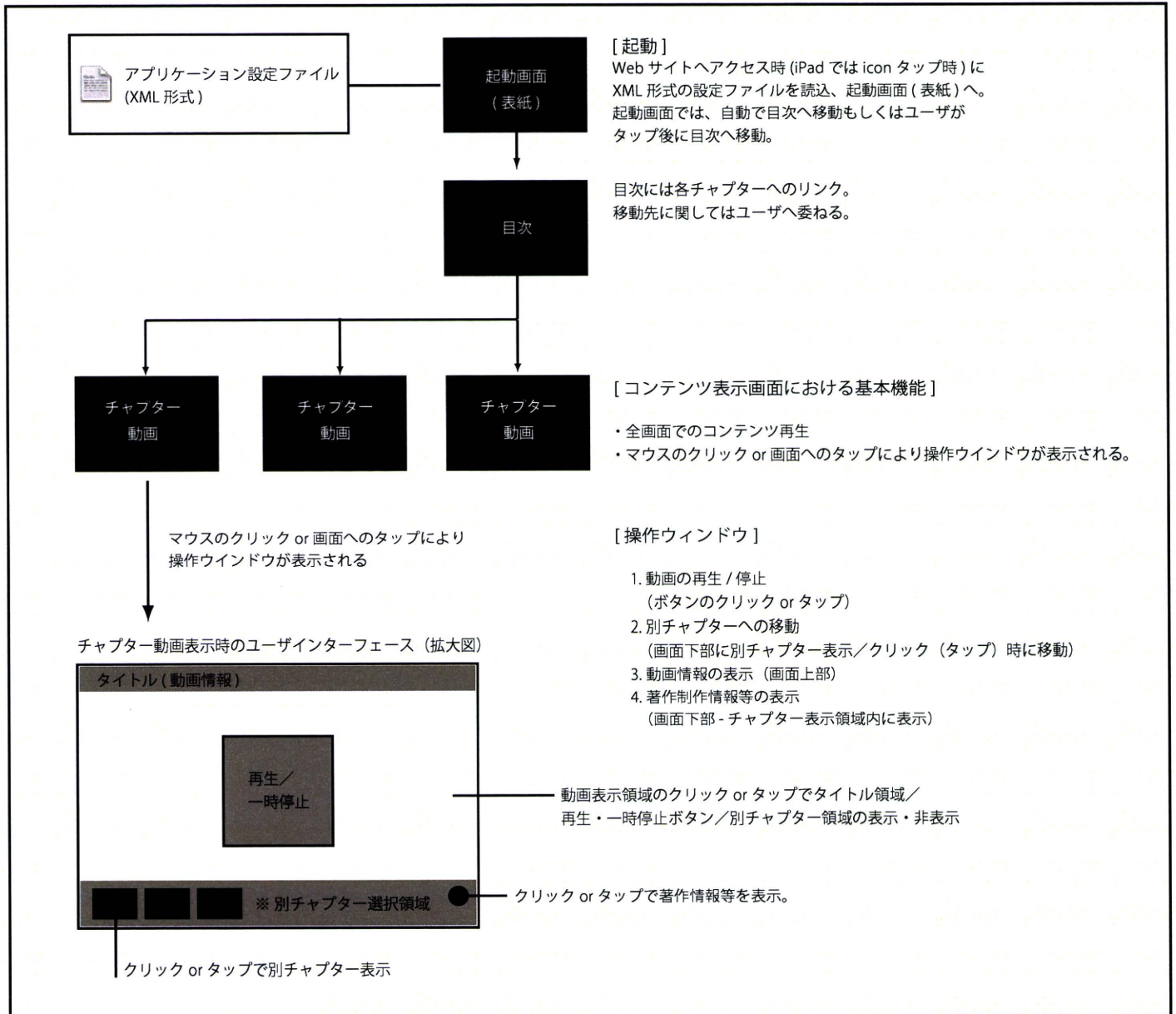


Na：  
信頼できる新薬を誕生させるための「プロセボ」、  
ご理解とご協力をお願いします。

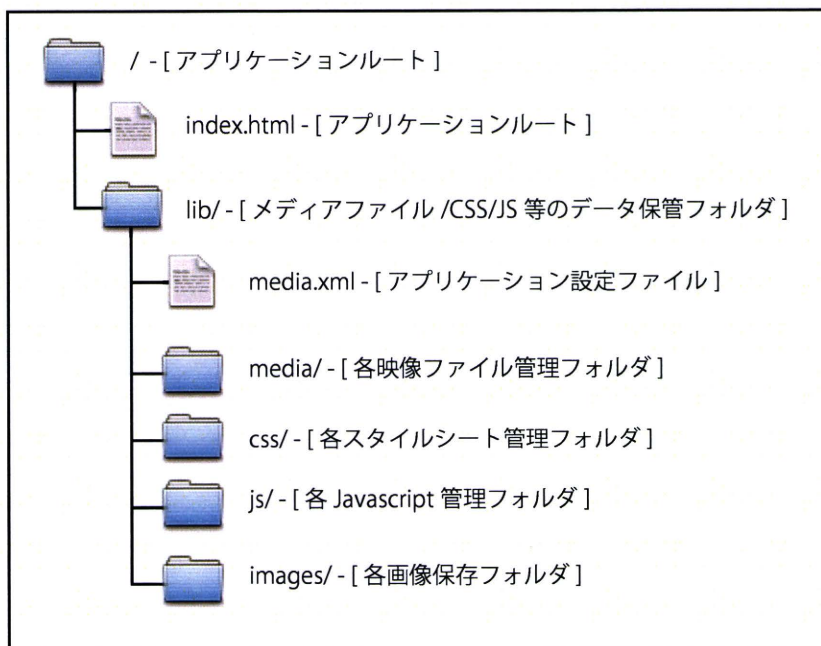
(END)



## [アプリケーション遷移図]



## [アプリケーション階層図] サーバに置かれる HTML5 アプリケーション及びデータファイルの配置図です。



厚生労働科学研究費補助金（医療技術実用化総合研究事業）  
分担研究報告書

倫理講習会の e-ラーニング化システムの構築と運用に関する研究

研究分担者 佐藤 敏彦 北里大学医学部附属臨床研究センター

研究協力者 斉藤 史朗 北里大学医学部附属臨床研究センター

研究要旨

学校法人北里研究所に所属する臨床研究機関において臨床研究を行う際に、研究者に履修が義務づけられている「倫理講習会」は、これまでは年に数回行う実際の講習会に参加する必要があったが、今回、これを E-ラーニング化し、時間と場所の制限なく、講習が受けられるようにするとともに、倫理講習会をまだ受講していない者へメールを送って受講を促すなど、管理者の事務を大幅に軽減することができるようになった。

A. 研究目的

倫理講習の受講は臨床研究を行うものにとっての義務であるが、これは初回の受講のあとも数年おきに受講して最新の倫理規定を理解し、それに準拠することが求められている。

しかし、実際に行われる講習に都合をあわせるのは、研究者に非常に重い負担を迫ることになってしまい、研究の足かせにさえなってしまうかねなかった。

これを E-ラーニング化することにより、いつでも、どこでも倫理講習を受講することを可能にし、研究者の負担を軽減することを本研究の第一の目的とした。

また、受講者とはインターネットで結ばれているので、それを利用して、受講の管理を行うことのできる。そこで、第二の目的として、受講者の管理をできるだけ簡略化し、管理にかかる負担を軽減することを試みた。

B. 研究方法

1. 講習のデジタル・コンテンツ化

一つには、実際に講習を行っている場面を撮影し、それと講習に使った資料をデジタル結合することによって作成したコンテンツを視聴することができるように準備した。

また、最初から E-ラーニング化を前提として、講義資料に音声を吹き込んだマルチメディア教材を作成し、それを視聴することもできるように準備し、二つのいずれの方法でコンテンツを作成してもよいようにした。

2. 受講者管理

受講者の視聴履歴を残し、視聴の態様によって、受講済みの資格を与えるかどうかを判断することができるようにした。（コンテンツを全部視聴したか否か）

また、テストを設けて、そのテストにどれくらい正答したのかによって、受講済みの資格を与えるかどうかを判断することができるようにした。



また、受講者の ID に附属したメールアドレスを利用して、倫理講習会の受講の案内やリマインドを自動的に行う機能をつけた。

## C. 研究結果

### 1. デジタル・コンテンツの登録

平成 22 年度 2 月に行われた倫理講習会を録画し、当日使用した講習会資料と結合することによって、倫理講習会のデジタル・コンテンツを作成した。

またこれをシステムに登録しておいたの  
で、平成 23 年度の倫理講習会は、一部、E-ラーニングで行うことができるようになった。

### 2. ユーザー管理

ある条件で検索、抽出されたユーザーについて、特定の内容のメールを出す機能をつけておいたので、いつでも登録している研究者に連絡を取れるようになっている。

## D. 考察

本 E-ラーニング・システムをテスト運用した結果、本運用するための課題が明らかになった。

すなわち、いつでもどこでも講習を受けられるようにするためのサーバー管理の方法、とりわけ研究者の個人情報の管理の厳重化という課題である。

学内における研究者の属性情報と連結することができれば、ユーザー管理は大変楽になるのだが、そのためには厳重であり、かつ、柔軟なセキュリティ運用が必要となる。

現在はセキュリティのために、運用の簡便さを犠牲にして、ユーザー管理をいちいち倫理講習会の管理者が行っている。この

手間をなくすようにしないと、負担を軽減したメリットがなくなってしまうので、ユーザー管理におけるセキュリティ対策が次の課題となる。

## E. 結論

本システムにより、研究者の負担は大いに改善されることになるが、実運用のためには、ユーザー管理のセキュリティ運用に関しての改善が必要である。

## F. 健康危険情報

特になし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表・書籍

なし

### 2. 学会発表

なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし

|     |              |        |     |                  |    |            |            |
|-----|--------------|--------|-----|------------------|----|------------|------------|
| 資料名 | <b>設計概要書</b> | プロジェクト | コード | 名称               | 作成 | 日付         | 担当         |
|     |              |        |     | 北里大学 倫理セミナーLMS構築 |    | 2010/12/15 | 株式会社アイエスエム |

## 北里大学様向け 倫理セミナーLMS構築 設計概要書

### 1) 要件

#### 1. 必須要件

- (a) 受講者へのリマインドメール送信機能  
動画の未視聴者へのリマインドメールが送信できる機能を設けること。
- (b) ビデオ視聴終了判定機能  
FLV動画の視聴完了を講義の終了条件(ビデオを最後まで見終わった段階で視聴終了とする)として検知可能であること。  
視聴終了の条件は、(a)のリマインドメール送信機能やシーケンシング機能(履修順序・履修条件の設定機能)でも条件として扱うことができること。
- (c) デザインカスタマイズ  
表向きはMoodleと分からないようなデザインに変更するなどのデザインカスタマイズをおこなう。
- (d) 履修状況表示機能  
画面上に講座およびテストの履修状況が判断できるような表示をすることにより、ユーザが「視聴未完了」「視聴完了」などの区別ができるようにする。

#### 2. オプション要件

- (e) 次回ログイン時に前回の終了位置から動画再生を再開できる機能  
動画を途中まで視聴した状態でLMSからログアウトした後、次回ログイン時に前回見終わったところから再開させる機能を設ける。

#### 3. 弊社必須作業

- (f) LMSサーバ構築  
Moodleのインストール作業、定時バックアップなどのMoodle設定作業のほか、セキュリティ、Sendmailなどのサーバ設定作業も含む。
- (g) 新規データ作成  
仮検収用のコース枠および講義・テスト等のサンプルデータのみを作成対象とします。想定データ量は、以下の通り。  
・カテゴリ&コース×1、講義×1~3、テスト×1、ユーザ×6(管理者:1、学生:5)
- (h) マニュアル作成  
カスタマイズ部分のみ。

#### 4. 前提条件 (※前提条件が変更になった場合は原則、再見積りが必要となります。)

- ・LMSはMoodleベースで構築する。
  - ・サーバ筐体はアイエスエム所有のWindows Serverを使用し、臨床研究センター(IPCR)サーバとは別筐体とする。
  - ・デザインは北里大学様のサイトを参考にしつつ、開発側で決めて構わない。
  - ・サイト構築にあたり、必要な文言は北里大学様側から提供する。
  - ・言語は日本語のみ対応 (多言語対応はしない)。
  - ・ユーザアカウント情報は北里大学様側で用意する。新規登録者は北里大学様側の事務局が入力する。  
本見積りの対象外とします。
- なお、本見積り範囲外の対応につきましては別途お見積りの上、追加費用にて対応させていただきます。

#### 5. 特記事項

- ・今後、要件が変更された場合には、再見積り、もしくは作業範囲の見直しをさせていただく場合があります。
- ・北里大学様の検収予定は2011年1月末とする。

### 2) 実現方法

#### 1. 受講者へのリマインドメール送信機能

##### 《概要》

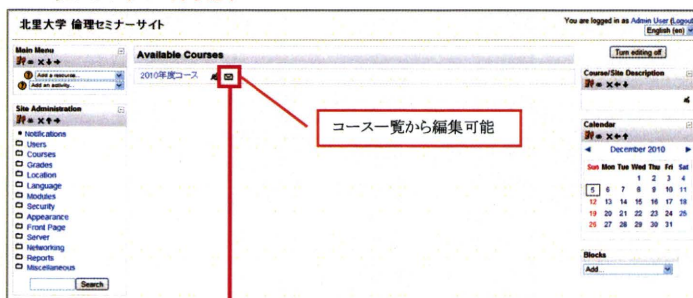
Moodleのカスタマイズをおこない、リマインドメール送信設定の編集ができる新規機能および画面を追加する。  
本機能により、動画の未視聴者へリマインドメールが送信できるほか、様々な条件を任意に設定して受講者にメールを送付することが可能となる。

##### 《機能》

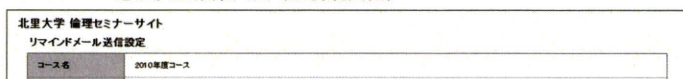
- ・自動送信(スケジューリング送信)/手動送信が選択できる
- ・自動送信は、ON/OFF設定、曜日単位での指定、時刻の指定が可能
- ・手動送信は、スケジューリング設定によらず今すぐにリマインドメールを送信したい場合に利用可能
- ・送信対象者の条件を、以下から選択することができる
  - ① コースに登録されている全学生ユーザ(受講者)
  - ② シーケンシング機能と同機能を使用して条件を任意に指定
  - ③ ユーザを直接指定する
- ・件名、本文が編集できる
- ・送信履歴の閲覧ができる
- ・コースごとに設定可能 (1コースにつき1つの設定が可能)

##### 《画面》

コース一覧画面 (※一部改修)



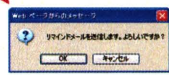
リマインドメール送信設定編集画面 (※新規開発)





リマインドメール送信履歴画面 (※新規開発)

| 送信日時                | 自動/手動 | 送信先                     |
|---------------------|-------|-------------------------|
| 2011/04/08 10:05:00 | 自動    | 山田 太郎<br>木下 次郎<br>鈴木 正子 |
| 2011/03/29 19:22:50 | 手動    | 山田 太郎<br>木下 次郎          |



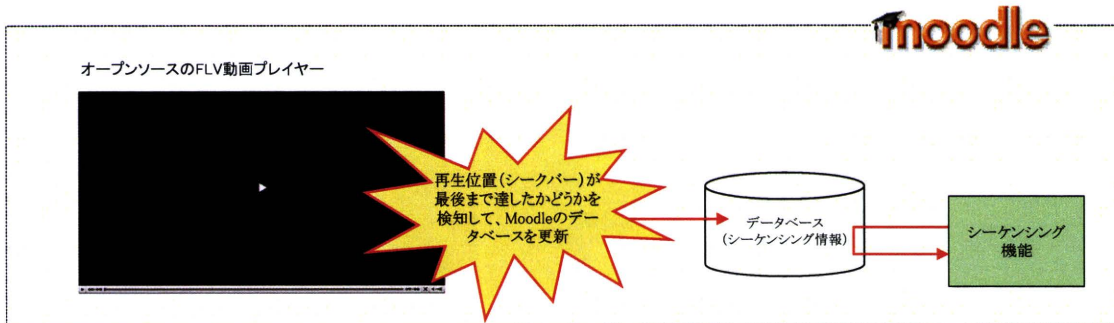
スケジューリングによらず、手動でリマインドメールを即時送信することも可能

※詳細については別資料「画面サンプル(リマインドメール送信機能).xls」を参照のこと

## 2. ビデオ視聴終了判定機能

《概要》

視聴が完了したかどうかの情報をデータベースに保存するように、FLV再生用の動画プレイヤーをカスタマイズする。  
また、データベースに格納した情報をシーケンシング機能側から判定条件として参照できるように既存機能および画面を改修する。



利用条件・制約条件

- ・動画プレイヤーの再生位置 (シークバー) が最後まで達したときを「視聴完了」と判定する。
- ・判定対象となる動画はFLVのみ。
- ・次回ログイン時に前回の終了位置から動画再生を再開できる機能 (オプション要件の(e)) は、今回の見積り範囲外 (別途お見積り) とさせていただきます。今回は、1講義内の動画を1つずつに分割する代替案で対応させていただきます。

《画面》

シーケンシング情報設定画面 (※一部改修)

## 3. 履修状況表示機能

《概要》

コース表示画面 (コース内の講義・テストを一覧表示する画面) 上に講座およびテストの履修状況が判断できるような表示をすることにより、ユーザが現在の履修状況を確認できるようにする。

《機能》

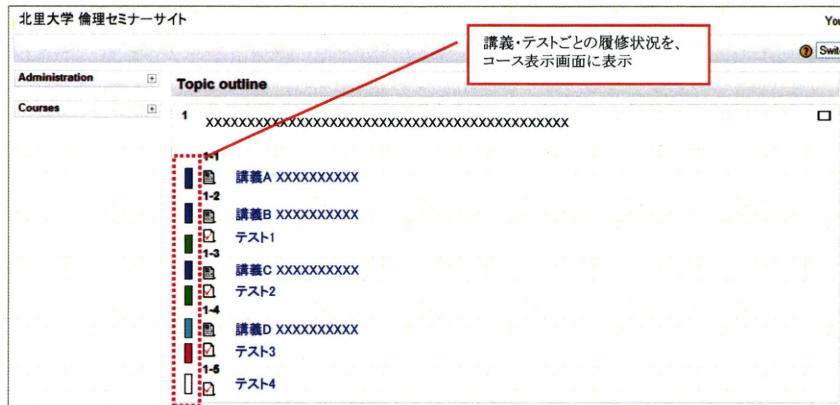


コース表示画面にて、各講義／小テストの履修状況に応じて、以下の5種類のアイコン表示する。  
 講義／小テストごとのアイコンの表示条件は、履修状況表示設定画面(※新規開発)にて設定する予定です。

| 履修状況   | アイコン | 説明                           |
|--------|------|------------------------------|
| ① 未履修  |      | 画面を一度も開いたことのない状態             |
| ② 履修中  |      | 画面を一度でも開いたことのある状態(ただし、③④⑤以外) |
| ③ 視聴完了 |      | 講義内の動画が視聴完了になった状態            |
| ④ 不合格  |      | 小テストを受けたがまだ合格していない状態         |
| ⑤ 合格   |      | 小テストに合格している状態                |

《画面》

コース表示画面(※一部改修)



以上

コース一覧

北里大学 倫理セミナーサイト

You are logged in as Admin User (Logout) English (en)

Turn editing off

Course/Site Description

Calendar

December 2010

Blocks

Available Courses

2010年度コース

編集モード時、コース一覧にリマインドメール送信設定編集のアイコンを表示させます。

Main Menu

Site Administration

Search

リマインドメール送信設定編集画面

北里大学 倫理セミナーサイト

リマインドメール送信設定

コース名 2010年度コース

アクティブ

送信スケジュール

送信時刻 10:00

送信対象

件名 倫理セミナーサイトからのお知らせ

本文

送信履歴

送信履歴

設定 今すぐ送信

「アクティブ」のチェックボックスを外すと、自動送信されません。

送信スケジュールを、曜日および時刻で指定できますので、例えば、「毎日10:00」や「毎週月曜の9:45」などの設定が可能です。

送信対象を、  
・コースに登録されている全学生ユーザ  
・コースのシーケンシング情報で設定された履修条件を満たさない学生ユーザ(シーケンシング機能を使っていない場合は無効になります)  
・(シーケンシング機能の一部機能を利用してシーケンシング機能とは別の)履修条件を満たさない学生ユーザのいずれかに選択することができます。  
例えば、セミナーAとセミナーBの両方のFLV動画を全て視聴していない学生に送付する設定も可能です。

ここで「学生」との表現は、「受講者」を表わすMoodle上のロールです。本当の意味の学生といたことではありません。念のため。

件名および本文を自由に編集することができます。

[id\_firstname] [id\_lastname] という変数を使うことで、「山田 太郎」などといった氏名をメール本文に表示させることもできます。

「今すぐ送信」ボタンをクリックすることで、(スケジュールされた時刻に関わらず今すぐ)画面に表示された条件および内容で、リマインドメールを送信します。

「送信履歴」ボタンをクリックすると、リマインドメールの送信履歴画面をポップアップ表示します。

リマインドメール送信履歴

| 送信日時                | 自動                    | 手動                    | 送信先                     |
|---------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|
| 2011/04/01 10:05:00 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | 山田 太郎<br>木下 次郎<br>鈴木 花子 |
| 2011/03/29 19:22:50 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | 山田 太郎<br>木下 次郎          |
|                     |                       |                       | ...                     |

送信日時の新しいものを上に表示します

閉じる

Web ページからのメッセージ

リマインドメールを送信します。よろしいですか?

OK キャンセル

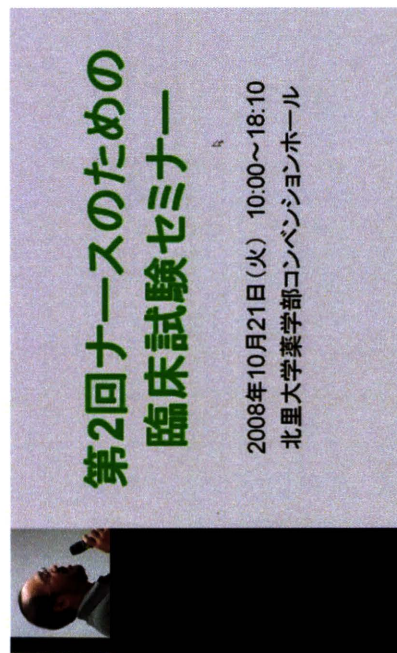
2010年6月15日

# 学習管理機能付き講義映像配信 サーバ整備

## 概要ご説明資料



# 講義映像配信と受講管理



| 受講者名                       | 名前で検索                                     | 実行     | グループで検索 |
|----------------------------|---|--------|---------|
| [SCORM 1.2]                | [SCORM 2004]                              | 森脇 健介  | 若杉 渡浩   |
| <input type="radio"/> 未学習  | <input type="checkbox"/> 未定(初回履修) または 未学習 | ユーザー 1 | 安希 達也   |
| <input type="radio"/> 学習終了 | <input type="checkbox"/> 学習終了             | ユーザー 2 | 乃       |
| <input type="radio"/> 学習中  | <input type="checkbox"/> 学習中              | ユーザー 1 |         |
| <input type="radio"/> 不合格  | <input type="checkbox"/> 未定(初回履修) または 未学習 |        |         |
| <input type="radio"/> 合格   | <input type="checkbox"/> 未定(初回履修) または 未学習 |        |         |
| 教材名                        |   |        |         |
|                            | 臨床研究人材育成コース 基本テスト                         |        |         |
|                            | 臨床研究人材育成コース 基礎講義                          |        |         |
|                            | 臨床研究人材育成コース 共通課程                          |        |         |
|                            | 臨床研究人材育成コース 応用課程                          |        |         |

講義映像の表示例

受講者管理画面

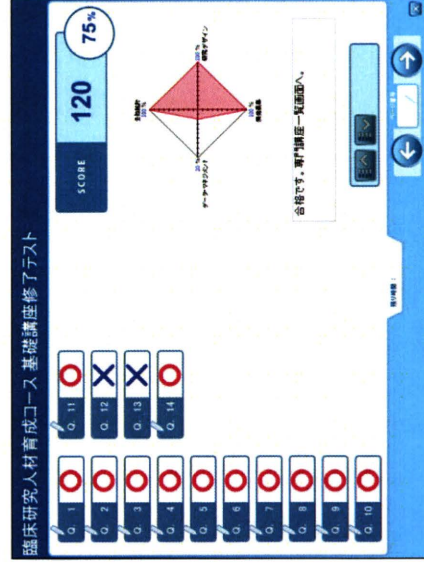
- 講義映像は、講師映像と講義資料が一体化した状態で配信されます。
- 受講者は、PCのウェブブラウザ上で講義映像を視聴します。
- WindowsとMacの両方に対応しています。
- 管理者は、受講者の視聴状況をウェブブラウザ上で確認できます。
- 未受講者に自動的にメールを一斉送信することができます。

\* 画面は一例で実際の仕様とは異なる場合があります。

# オンラインテスト機能



オンラインテスト開始画面



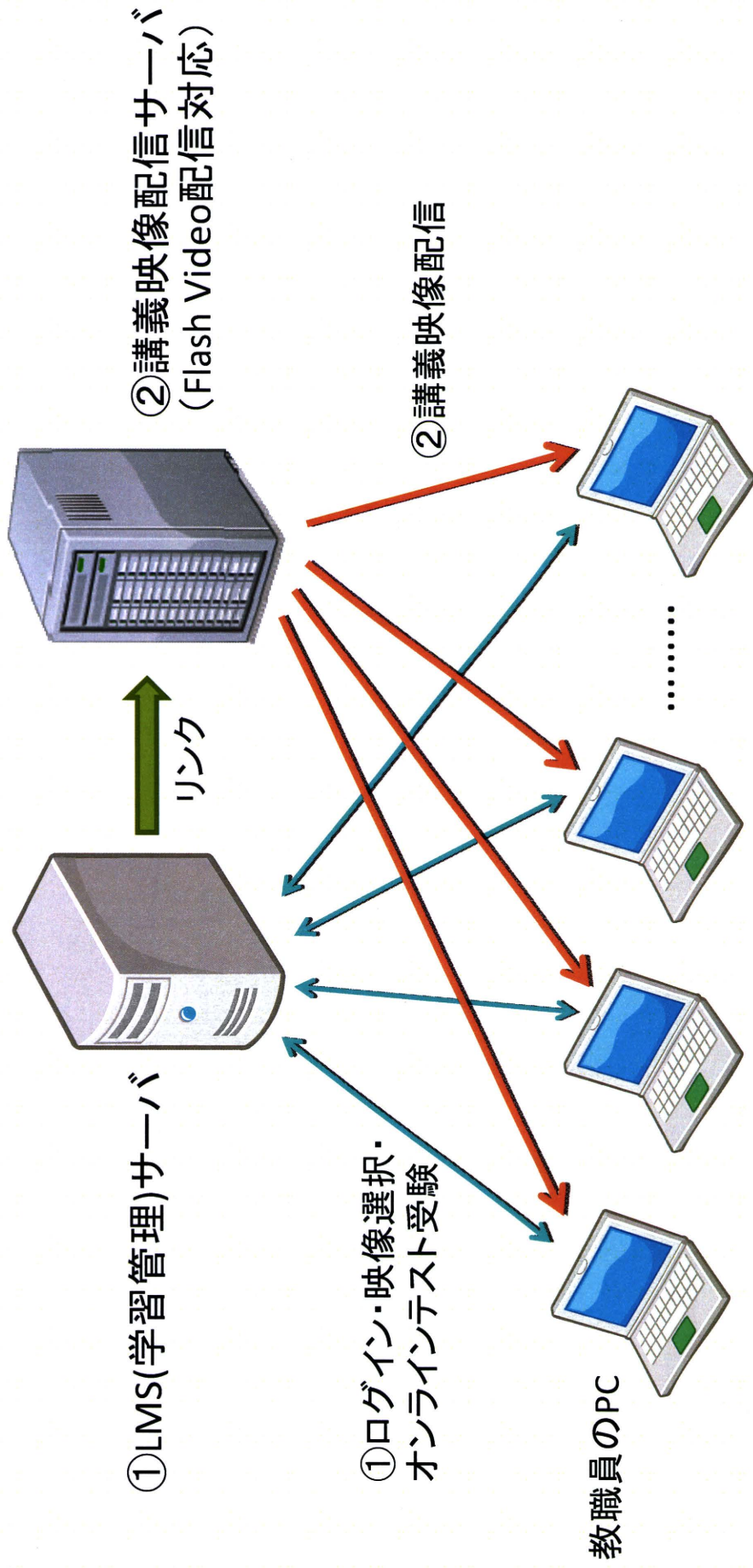
オンラインテスト成績集計画面

- 講義ビデオ視聴終了後に、ウェブブラウザ上でテストを受験できます。
- 受講者は、ウェブブラウザ上で解答し、成績を即座に把握できます。
- 管理者は、受講者の成績をウェブブラウザ上で確認できます。
- 管理者は、問題作成や変更を容易に行えます。

\* 画面は一例で実際の仕様とは異なる場合があります。



# サーバ構成と役割



- 最大1000人の利用が可能です。
- 同時アクセス数は20人です。
- サーバは学内に設置し、学内のみアクセス可能です。

厚生労働科学研究費補助金（医療技術実用化総合研究事業）  
分担研究報告書

臨床研究を支援するための倫理委員会関連システムの構築と運用に関する研究

研究分担者 佐藤 敏彦 北里大学医学部附属臨床研究センター  
研究協力者 斉藤 史朗 北里大学医学部附属臨床研究センター  
坂本 泰理 北里大学医学部附属臨床研究センター  
姫野 宏輔 東京大学人文社会系大学院博士課程

研究要旨

臨床研究の促進のために、臨床研究に関する倫理委員会への研究許可申請から可否決定通知までの業務を、できるだけデジタル化し、研究者（申請者）および業務管理の負担を軽減することを目指してシステムを構築した。

研究者は Web 上で、自分の研究に必要な十分な書類の作成および申請が可能となる。また、申請書や必要書類、審議のやりとりなどはデータベース化されるため、倫理委員会を管理運営する労力が大幅に省力化された。また、このデータベースを利用することにより、いつでも、すぐに現在の臨床研究の実施状況を知ることができるようになった。

A. 研究目的

本研究では、以下の3点を研究の目的とする。一つは、倫理委員会への研究許可申請に申請者（研究者）がかかる労力を省力化すること。二つ目が、倫理委員会の業務管理業務の負担を軽減すること。三つ目が倫理委員会の関係書式をデータベース化することにより、臨床研究の現状を簡便に把握することを可能とすることである。

B. 研究方法

1. 研究内容のパターン化と Web による入力

倫理規定の対応の違い、必要とされる書類の違いなどで、研究の種類を分類し、それに応じたチェック・シートを作成して、研究に必要な書式を自動的に判別する仕組みを作る。

Web 上で必要事項を記載するだけで、必要書類ができあがり、関係者に送付されるような仕組みを作る。

2. 必要書類のデータベース化

書式をデータベース管理することによって、紙を利用していたときに比べて、検索を容易にして業務負担を軽減する。

3. 検索による現状把握

必要書類をデータベース管理することにより、現状の有様を短時間で把握する。

C. 研究結果

1. 研究内容のパターン化と Web による入力

申請者がチェックシートに記載したチェック事項から、研究内容パターンを選択し、